レッスン：N0.PYR 22

テーマ：アガピとエロティズム

PYR N0.22/KE04/No.13/1/6/04

私たちの姉妹・兄弟たちよ、

スピリット、光、火の子供達よ｡私たちは常に主、絶対、主の聖性のなかに抱かれています。

　エレブナの原理・原則は真理の探究者が真の自己、セルフを表現するという**仕**事に重きを置いています。**そして真のセルフ、自己とはアガピ、つまり無条件の愛以外の何ものでもありません。**ですから、アガピが私たちの達成目的であるべきです。なぜなら､冒頭で述べたように私たちはスピリット、光、火の子供だからであり、私たちは絶対真理の子供だからです。実際、**絶対真理は一つであり、それはLifeそれ自体であり、それは絶対であるスピリットセルフです。**

**そしてスピリットの子供達と言う時、ワンネスの多様性・多重性のなかには無数のスピリットセルフ・モナドがあります。それらは皆同じです。全体から一つを分離させることはできません；神は多重性・多様性というステートのなかで一つなのです。**

　ですから私たちの主な仕事、私たちの全ての努力はアガピを表現すること、全ての人間または創造界のすべての存在に向けてアガピを現すことです。しかし、同時に創造界それ自体に対してアガピを現すことです。なぜなら、創造界それ自体も生きているからです。実在しているものすべては生きており、以前のレッスンで存在し、実在しているものについて述べました。なぜなら、Lifeがそれをサポートし、活性化するからです。さもないとそれらは実在することさえありません。

　そうです、私たちの主な仕事は創造界における全ての人間に対してアガピを現すことです…皮膚の色、人種、宗教、さらにはその人がどのレベルを表現しているかにかかわらず。私たちはすべての人を同じように受け入れるべきです。私たちは自分自身のセルフを愛するように他の人をも愛するべきです。どのセルフでしょうか？鏡の中のセルフ、そのイメージに魅惑されているセルフでしょうか？違います。アガピの現れの結果として表現されている愛、アガピの表現である私たち自身です。そのようなアガピと共に人々を抱きしめることにより、そのようなアガピを人々に伝えるべきなのです。

　ですから、私たちは他人をジャッジすべきではなく、他人を信頼しようとすべきです…「信頼できる」人ではないと知っていても。しかし、相手が信頼出来る人かどうか、とジャッジする私たちは誰なのでしょうか？彼らが存在し、実在しているということは、彼らの現れがどのようであれ、彼らはLifeそれ自体によって抱かれていることを意味します。ジャッジする私たちとは誰なのか？彼らは信頼できず、彼らとつきあい、抱きしめることにより、その結果を蒙るようになる、とあなたは言うかもしれません。それならそうありなさい、それは彼らの問題であり、あなたの問題ではありません。彼らは原因・結果の法則による結果を蒙ることでしょう。

　　ですから、私たちが求める唯一のことは全ての人、すべてのものに対してアガピを現すことです。そしてすべてのものと言う時、自然さえも含まれています。

Page2

 ですから、絶対存在とは何かを説明する6つの言葉を述べました：スピリットは光であり､光は火であり、火はLifeであり、Lifeはアガピであり、アガピは真理です。これら6つの言葉（＊スピリット、光、火、Life、アガピ、真理）は絶対が何であるかを説明します。

　エレブナはこの仕事の達成に向けてどのように進むべきかを説明しました。**Lifeは、あなたの真のセルフを現すというこの仕事の達成に向けてのプロセスを加速するために必要なそれら全ての手段を提供しています。**あなたは潜在的可能性のサイクルのなかでそれらの手段、助けのいくつかを与えられました。手段とはそれらのシンボルであり、それらは三次元の諸世界のなかに投射されており、それらは様々なタイプのピラミッドです：四面ピラミッド、三面ピラミッド、五面ピラミッド、もして勿論それら3つのピラミッドをマスターした結果である一面ピラミッドがあります。ですから、サイクルのなかには3つの重要な助けがあり、今までのレッスンで説明した3つのピラミッドは3つのサイクルのなかにあります。なぜなら、3番目を完成させた時、他の1つの助けはもはや必要ないからです。そしてそれは五面ピラミッドであり、それは勿論五つの感覚を意味します。なぜなら、4番目のサイクルにおいて、パーソナリティーは5つの真の感覚を完全に使うからです。

　そうです、5面ピラミッドはそこにあるでしょう、現在のパーソナリティーに何も与えることなく。それはそこにあるでしょう、なぜならそれは5つの真の感覚を意味し、それは完全に現在のパーソナリティーの手のなかにあるからです。そして勿論現在のパーソナリティーが4番目のサイクルをマスターするという最終的段階に来ると、もはや5つの感覚も必要なくなります。なぜなら、そのパーソナリティーは他の同胞の人間たち、及び創造界に存在し実在するものとのコミュニケーションのための手段として同調を使い始めるからです。

　さて、創造界に存在し、実在するものとのコミュニケーションとはどういうことでしょうか？何であれ実在するもの、命のない実在物とコミュニケーションできるでしょうか？勿論可能です。何とでも同調することができます。なぜならLifeは全てのなかにあるからです。この惑星それ自体ともコミュニケーションできます。なぜなら、地球は生きているからです。地球には前に述べたように惑星ロゴスとしてのLifeがあり、同時に地球の全ての原子、細胞、分子のなかで無数のアークエンジェルたちが働いています。

　ですから、Lifeには2つのカテゴリーがあります。一つはロゴスとしての状態であり、それは惑星ロゴス、そしてモナドセルフです；そしてもう一つのカテゴリーは惑星の全ての原子、細胞、分子のなかの無数のアークエンジェルで、それらは聖霊的現れです。ですからロゴス的現れおよび聖霊的現れがあります。

　前のレッスンで、絶対存在のダイナミックな現れは他の何かである、と述べました。それは別の特質ですが、残念なことに人間はそれをそのようなものとして認識していません。そして手としてではなく絶対存在の本質として現れを創造するそのダイナミズムは、the Widest of Heaven（もっとも広いヘブン）です。the Widest of Heavenは地球とどのように関係しているのでしょうか？ Widest of Heavenの中には他の全てのヘブンがあります。そうです、彼女は同時に全ての人間のなかにあります。なぜなら、二元性は男女を問わず全ての人間のなかにあるからです。

　ですから惑星ロゴスと言う時、このロゴスのなかに彼女（the Widest of Heaven）もいて、彼女は純粋な愛、純粋なアガピです。同じことはロゴス的現れである惑星ロゴスについても言えます。

　「私は誰々を愛している」と言う時、それはどういう意味だと思いますか？私たちは本当にアガピとしての真の自分を現しているでしょうか？引きつけているのは純粋なアガピでしょうか？アガピとは何で、魅惑とは何でしょうか？エロティズムとは何でしょうか？エロティズムはアガピと関係しているでしょうか？どう思いますか；そしてどうあるべきでしょうか？そうです、エロティズムは主に、性、セックスと関係しています、しかし真のエロティズムは純粋なアガピの結果です。それは時間としてのある期間だけのものでなく、それは永遠の今のなかにあるものです。エゴの結果としてのエロティズムと真のエロテシィズムを混同しないでください。

　両方のカテゴリーのエロティズムは私たちがセックス、性と呼ぶものとつながりますが、しかし純粋に肉体的なものの行為がセックスであり、**しかし性、セックスの原因は肉体から来るのではなく、パーソナリティーそれ自体から来るものです。**

　初めはそれはエゴイズムからスタートし、現在のパーソナリティーの成長・発展の結果として；エロティズムにはまたアガピがベースとしてあります。**そしてこのアガピは初めは一つのパーソナリティーにフォーカスすることができますが、次第に全ての人間に向けて広がり、2つのパーソナリティーを引きつけた同じ魅力が、全ての人間に対して生じ、それが自然そして神に向けても起こりうるのです。**

　おそらくあなたもこの主のエロティズムを味わったかもしれません。あなたは誰かと恋に落ち、その人といつも一緒にいたいと思います。その人がいないと寂しくなり、相手もあなたがいないと寂しくなります。あなたは相手と一つであるように感じます。

**いいですか、あなたの真のセルフを現すステートに到達すると、あなたはその気持ちをあなたの聖なるセルフに対して、神に対して現すようになるのです。**

　私が今あなたに伝えようとしていることを完全に説明する言葉はありません。しかし、それが真のエロティズムです。それが実存の諸世界におけるアガピの真の現れです。私たちは今実存の諸世界におけるアガピの究極的なステートについて述べています；Lifeそれ自体の諸世界について述べているのではありません。Lifeそれ自体の諸世界は完全に異なっています。しかし一度現在のパーソナリティーが自分自身を表現するために肉体を使用すると、これがアガピの究極的表現となります。

　ですから、エロティズムという言葉を聞いたとき、それをセックスと結びついた低次の表現と結びつけないでください。なぜなら、***エロティズムという言葉はあなたが神に対してアガピを現す時にも使えるからです。そして、いいですか、主は創造界における全ての人間に対してエロティズムを現しているのです。それは主がそれほど全ての人とつながっているということです。***それはいかなる気持をも伴わないアガピではなく、それはエロティズム、思いやりを伴った純粋なアガピなのです。私たちは一人ではありません、私たちはいつも愛されています。そしてそのような愛は全ての人に向けられています。それは全てに人に対する主の愛であり、私はそのようなアガピを全ての人に現すべきです。ですから、これが主な仕事です。

　ですから、私たちは誰に対しても無条件のアガピを現すべきです…その人の現れがどうであっても…皮膚の色、国籍、その他何であれ。そして私達の努力とは、Lifeそれ自体から絶えずもっと多くを現すということです。

　アガピの表現は花の開花のようなものであり、私たちはその花をあらゆる危険から守るべきです。どのように守るのでしょうか？アガピでそれを包むことによって、それによって花は素晴らしい花となり、その美しい花がその最高の段階に到達したとき、それは永遠のそのような状態に留まるのです。

　太陽系の中では絶えず磁気的な引っ張りがあり、エロティズムに似たような引き寄せがあります。実存の諸世界、バランスと対極的二元性の諸世界では、私たちは引き寄せと反発を目撃しており、反発のなかには引き寄せもあります。バランスが存在し、実在するためには、この引き寄せと反発のステートが必要ですが、それは実際のエロティズムと何の関係もありません。

　本当のエロティズムが表現される時、それはアガピと同じようなものです；それは実存の諸世界におけるアガピです。エゴの結果であるような種類のエロティズムと間違わないであください。何かを達成するために、刺激し、制限ある時間においてのみ続く、そのようなエロティズムと、時間という制限のないエロティズムを間違えないでください。一度それが表現されたなら、それは今生だけでなく、未来の全ての人生においても続くのです。

Page4

 初めは、それはモナド・セルフに向けた限界の中だけかもしれませんが、後には徐々に全人類へと広がっていきます。**過去の賢人たちはエロティズムの拡大を小さな円で表現しました。次にその円が次々と拡大していき、最後には創造界におけるすべての人間を包む最大の円になります。それはその現在のパーソナリティーが自己実現に到達し、アガピを現していることを意味します。そして自己実現した現在のパーソナリティーとしてそのスパークもアガピなのです。**

　真のクリスチャンとは内側からアガピを現す人で、それが本当のキリストの意味です。それはその人の背景（＊文化圏、宗教など）がどのようなものであれそのパーソナリティーが現している状態です。

　時には、親の愛ですら、そこには子供に対する思いがあるとしても、そこにはエゴイスティックなエレメントがあると言えます。しかし、そのあなたの子供に対する思いはあなたの友達、そして周りの町、さらにはもっともっと大きく広がっていきます。勿論、子供のいない人はおそらく親戚の子供に対して名付け親として、友達としてそれを感じ、さらには動物界にも感じることでしょう。

　そうです、エロティズムは何であれ存在し、実在しているもの全てに向けて現すことができます。問題はその人がエロティズムを自然の中の何か、または場所に向けて表現しているかどうか、ということです。そうです、それで構いません。初めはあなたの周囲に向けて、つまり家族の誰か、友人たちに向けられます。この種のエロティズムには時間という限界がありません。そしてそれは次の転生にまで続くことでしょう。

　それは何かの中毒症状にしても同じですが、しかし中毒症状は癒されることが可能ですが、この種のエロティズムは癒されることがありません。なぜならそれは病気ではないからです。それは実存の諸世界におけるアガピの始まりです。そのようであるべきです；それはそのパーソナリティーが治癒されることを求める何かではありません。

　**このような愛を現す人はエネルギーに満ちています。なぜならエネルギーとアガピは同義語だからです。**

　エロティズムは初期の段階では性、セックスと結びついていますが、しかし、本当のエロティズムは存在し、実在しているもの全てへとどんどん拡大していきます。それは現れの諸世界のなかで無条件の愛へと到達します。それは自分自身を喜ばせることではなく、他人を喜ばせることです。

　あなたが本当のエロティズムをたとえある個人に向けて現す時でも、それは満足するかどうかという問題ではありません。それは二元性のなかにいるパーソナリティーによって表現されます。あなたはそのとき相手と一つになり、そのパーソナリティーに同調します。それはセックスということではありません。本当のエロティズムは実在のバイブレーションから始まるものではありません。それはサイコノエティカル界のバイブレーションから始まります。真のエロティズムは肉体ではなく、それはそのパーソナリティーそれ自体からスタートします。

　実在のもう一つのバイブレーション、つまりサイコノエティカル界のなかでは、あなたのエロティズムを誰かに向けて表現する限界があるでしょうか？答えはノーです。なぜなら、それらのバイブレーションのなかでは私たちは一緒にいたいと望み、同調して一つになりたいと願う誰かを創造することができるからです。それをエゴイスティックと見なすべきではありません。なぜならそれは超意識的に行われ、それを必要とする人々に向けられるからです。

Page5

 あなたは愛、アガピのレベルの愛を伝えます。それは相手によって理解されるものです。それは勿論そこには多くのエゴがあります。なぜならそのパーソナリティーはエゴの様々な側面を現しているからです。ですから、真のアガピはエゴイズムが脇におかれた時に初めてスタートするのです。

　潜在的可能性の2番目のサイクルにいる人々のなかの少数の人が、真のアガピから出る本当のエロティズムに引かれる気持を持つかもしれません。しかしそれは真のアガピではありません。

Q：セックスについてはどうですか？それは単に生殖、出産のためだけですか？

K:説明したようにセックスでさえそれには目的があります。セックスでも2人の人間を結びつけることができます。しかし、より重要なことは他の人に対する思いやりです。あなた自身に対する結果がどうあろうとも、あなたは相手を思いやります。それはアガピに最も近いものです；あなた自身への結果がどうあろうとも相手をおもいやることです。

　ですから、過去において触れることのなかった何かを分析してきました。ある程度まで見て来ましたが、さらにもっと深く分析することができます。残念ながら、人間はこのエロティズムという主題、あるいはセックスについて触れることを恥じています。次のようにいいましょう…何であれ主、神から与えられたものを恥じるべきではありません。

Q：エロティックな関係を満足させることのなかには、世界に対して愛の純粋性を表現することに自分を開くという始まりがあると思います。

K：そのとおりだと思います。あなたが夫、パートナー、妻等に愛を表現するとき、その動機は自分自身を喜ばせることではなく、相手を喜ばせることであるべきです。もし本当に相手を思いやっているなら、そうあるべきです。

Ｑ：あなたが始めに述べたこと、つまり「相手がどうあろうとも全ての人を愛するべきだ」に関して質問があります。あなたは前にまた、私たちは自分自身を守るべきだ、と言いました；ですから私たちが愛を与え、自分を開く場合、もし相手が何らかの結果を蒙るならそれは彼らの問題です；そのようにする時、私たちに即座に来る結果についてはどうなのでしょうか？

またレッスンのなかで相手を信頼すべきでないと知っている時でさえ、それを無視し、与えるべきだといいました。

Ｋ：それは相手が信頼出来る人か否かをあなたがどのようにわかるのか、によります。もし証拠があるのならそれは別問題です。そしてその人を信用しなかったことによって、その結果を後になって知ることができるべきです。しかし、きちんとした理由と証拠なしに、推測に基づいて判断すべきではありません。

Ｑ：絶対愛とは自分自身への結果を考えることなしに誰かに対して思いやりを現すことである、と言いましたね。そのような見解からあなたが語ること全ては男性から男性へ、または女性から女性へ、と感じられます。あなたは何か区別しますか？

Ｋ：あなたは私を困難な状態に入れましたね。

Ｑ：私たちは今絶対愛について話しています。

Ｋ：エロティズムには境界はありません。なぜなら、エロティズムと無条件の愛、またはアガピは一つであり、同じことだからです。しかし、セックスに関しては…セックスがそこに含まれるとそれはまったく別問題となります。

Ｑ：質問はそれが同性同士についても当てはまるかどうかということです。そしてもし神がそれを許すなら、そのような人々は特定の欠点、問題と共にやってきました。ですからそのような人々は一生涯セックスを体験せずに生きるべきでしょうか？

Page6

Ｋ：それは私がすでに述べたことです；エロティズムをセックスなしに現すことができます。もし彼らが肉体的なセックスを必要とするなら、それは彼らの問題です。**しかし、私にとってそれはひとつの病気です。**

Ｑ：そうです、それは病気ですが、だからといってそれを非難することはできません。

Ｋ：私たちは誰を非難すると言うのでしょうか？私はそうは言いませんでした。それは彼らの問題です。私は決して非難したことはありませんが、しかしそれをノーマルなことであると認めたことはありません。それは自然なことではありません。私から見ればそれは病気です。しかしそれを病気と判断するのは私のすることではありません。人々がどのようにしてそのような病気になったのかにかかわらず、そのような人々を批判したり、非難するのは私のすべきことではありません。それは彼らの過ちではなく、それゆえに批判することはできません。しかし、それは原因・結果の法則と関係があります。

レッスンPYR NO. 22　エクササイズ　１

目を閉じて静かに座り心をさわがせるもの全てを解き放ちます…真っ白な自分を見ます…自分の形の境界を感じます…そして純白の五芒星のなかで守られている自分を見、同時にあなたは14芒星のなかにいます…

　それでは四面ピラミッドを視覚化し…あなたは四面ピラミッドのなかで立っています…正面には純白の輝きが、右には赤の輝き、後ろにはホワイトブルーの輝きが、そして左にはウルトラバイオレットの輝きがあります…

　それでは（＊四面ピラミッドのなかに立っているあなたの）3つの太陽を活性化します…太陽神軽叢からはホワイトブルーの太陽、エーテルのハートからはホワイトピンク、そして頭のセンターからは金色のそれがあり…3つの太陽は全方向に輝く光を放っていますが、それぞれの色が混じり合うことはありません…

　それらは輝き、四面ピラミッドからの4つの輝きのなかを通過します…しかし色が混ざり合うことはありません…

　金色、ホワイトピンク、ホワイトブルーの輝きが四面ピラミッドの4つの輝きの中を通過します…四面ピラミッドの全ての色にそれが生じています…

　ですから今、3つの太陽の輝きが四面ピラミッドの境界の外にまで輝き出て、自然を包み、そして自然のなかの全ての人間をも包みます…これら3つの太陽の輝きが地球を、そして地球上の全ての人間を包んでいます。

この地球上の全ての人間の健康を願い、同時に自然それ自体の健康をも願います…終わります。

EREVNA PYR22/KE04/L13/6/04